

# 令和2年度 中学校社会 授業づくり講座レポート

【いの町立伊野中学校会場】

いの町立伊野中学校 社会科部会  
竹本 昌司 教諭 (授業者) 野村 訓弘 教諭  
篠崎 荘 教諭

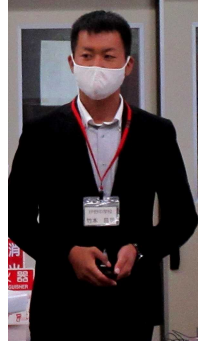
単元 第2学年 日本の諸地域 東北地方  
～災害からの教訓を中核とした考察の仕方～

発行  
令和3年3月  
中部教育事務所

## 社会科授業づくり講座 3つのコンセプト

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる問いの研究～単元を通じた問いと各時間の問いのつながり～
- ②課題の追究・解決を通して資質・能力を育成する単元づくり～学習指導要領の趣旨理解～
- ③参加者が主体的に学べる講座の工夫

### 【教材研究会】9月29日



| 単元を貫く課題 | 東北地方での災害の教訓を<br>高知ではどのように生かしていけばよいのだろう |
|---------|--|
| 時       | 学習課題 (問い)                              |
| 第一時     | 東日本大震災の被害を過去の地震と比較してみよう                |
| 第二時     | 気候の特色と津波被害が大きかった地形上の理由を考えよう            |
| 第三時     | 東日本大震災は産業にどんな被害をもたらしたのだろう              |
| 第四時     | 東北六魂祭には人々のどんな思いが込められているのだろう            |
| 第五時     | 東日本大震災では、過去の震災の教訓がどのように生かされたのだろう       |
| 第六時     | 東北の教訓をもとに、高知県に起こる震災から人々の生活を守る方法を考えよう   |



太字の部分が  
変更点です。

### 【授業研究会】10月28日

教材研究会の協議・講師の講話から学んだことを基に、単元計画が次のように修正された。

| 単元を貫く課題 | 南海大地震対策リーダーとして<br>東北の教訓から高知の防災を考えよう                         |
|---------|---|
| 時       | 学習課題 (問い)   |
| 第一時     | 東日本大震災の被害から、 <b>高知県の地震被害を予想しよう</b>                          |
| 第二時     | 気候の特色と津波被害が大きかった地形上の理由を考えよう                                 |
| 第三時     | 東日本大震災が産業にもたらした被害から、<br><b>南海大地震が起きた時に高知の産業に与える影響を予測しよう</b> |
| 第四時     | 災害後の大変な時にもかかわらず、 <b>なぜ祭りは開催されたのだろう</b>                      |
| 第五時     | 東日本大震災では、過去の震災の教訓がどのように生かされたのだろう                            |
| 第六時     | <b>南海大地震対策リーダーとして、東北の教訓から高知の防災を考えよう</b>                     |

協議の柱：単元を貫く問いと毎時間の問いとのつながりについて  
～自分事として捉えられる問いとなっているか～

【協議より】



高知県を対象とすると範囲が広いので、生徒が住んでいるいの町を対象としてはどうか。

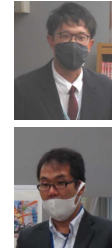
例えば、「あなたが県や市町村の職員やリーダーといった立場だったらどうするか」というように、立場を設定した問いにしてはどうか。



協議の柱：単元で付けたい力にせまることができていたか

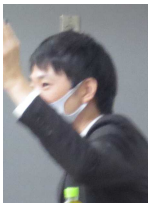
【井上先生の講話より】

【協議より】



東北のことについては、生徒は資料を基に調べていたが、高知県のことについて調べる時間や情報が必要だったのではないかと。

社会科における問題解決学習の「問題」とは、実際に社会で生じている問題を指す。その問題について、①事実（問題となっていること）を把握し、②なぜそうなるのか、③どうすればよいのか、という段階的な問いの設定（下図）によって、思考を深めていく。その際、③どうすればよいのかを考える前に、今その問題に対してどのような取組があるのかを知ることが大切。今回でいえば、高知県の危機管理部の取組を知り、そこで生じている問題について、解決策を考えさせたい。



家庭学習支援動画では、この部分にチャレンジしてみました。ぜひご覧ください！

【講師（愛媛大学教育学部社会科教育講座講師 井上昌善先生）の講話より】

#### ①学習評価のポイントについて

単元を貫く問いについて、単元の導入では仮説的・予想的な意見を書かせ、単元の最後には学習を踏まえたまとめの意見を書かせる（右図参照）。こうすると、導入での自分の意見と比較して、単元の学びや新たに加わった視点や気づきを振り返ることができる。大事なものは、単元の最後に書かせたいことに向けて、毎時間のまとめについての助言等の学習改善につなげる評価をしていくことである。

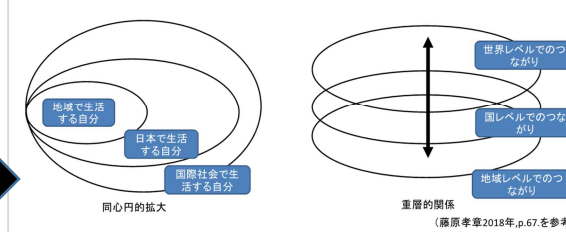
#### ②自分事として捉えさせることについて

「公民」として考えることができるように指導することが重要。「公民」には、よりよい社会を築くために、今行われている取組に対して批判的に思考する「市民」と、今行われている取組の中で義務を果たそうとする「国民」という二つの側面がある。どちらの側面から捉えさせるかを規定することが、授業の在り方を決める。また、地域から国家、国際社会まで、様々な単位の社会や、その中での「自分」について考えさせていくこと（右図参照）が大切である。

小単元「海洋プラスチックごみ発生量がアジア州の国々に多いのはなぜ！」の概要

| 時数  | 主な学習課題                                   |
|-----|--|
| 第一時 | * 海洋へのプラスチックごみ発生量が多い国がどうしてアジア州に集中しているのか？ |
| 第二時 | 中国が海洋へのプラスチックごみ発生量世界一なのはなぜ？              |
| 第三時 | 東南アジアの国々から海洋プラスチックごみが大量に発生するのはなぜ？        |
| 第四時 | 海洋プラスチックごみの問題は誰が解決すべき？                   |
| 第五時 | * 海洋へのプラスチックごみ発生量が多い国がどうしてアジア州に集中しているのか？ |

○『自分事』として考えさせたい！  
→『公民』として考えることができるように指導することが重要。



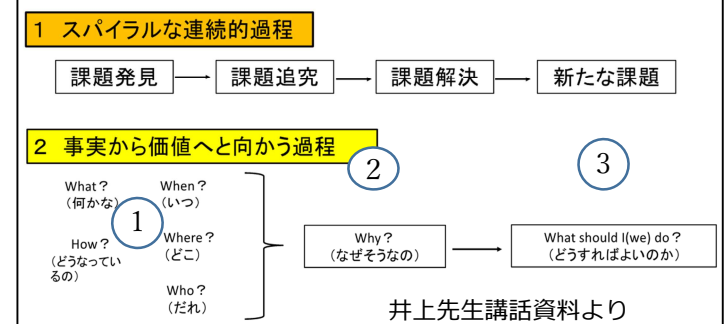
育成すべき「公民」の人間像によって、授業のあり方が規定される。

↑井上先生講話資料より

社会で生じている問題を扱ううえでは、現在解決できていない大きな問題の直接的な解決策を考えさせるのではなく、その問題に対する現在の取組の中で生じている問題の解決策を考えさせることが大切である。

## 中学校社会の授業づくりで、今後も大切にしていきたいこと

### 探究としての学習過程



- 「自分事」として捉えさせる際に、「公民として」考えさせること。そのために、問いの中に立場を設定することや、実際に社会で生じている大きな問題について、①現在の取組の中で問題になっていることは何か、②なぜ取組の中でその問題が生じているのか、③今後どうすればよいのか、(右図参照)といった、段階的な問いによって、社会についての知識や思考を深めていくことが大切である。

- 学習評価の充実を図るために、「評価規準と連動した単元を貫く問い」を設定するとともに、その「問い」に対する意見を形成させるために、一時間の授業ごとに「問い」を設定すること。その際、各時間の「問い」に対する予想や意見を生徒に自分の言葉で書かせること、そして書かせたことに対して、どんな点が良いのか、さらに伸びるために取り組むべきことや注意すべきことを具体的に助言することで、生徒の学習意欲を高めるなど、学習の改善や教師の指導の改善に生かしていくことが大切である。

「高知県から遠く離れた東北地方のことをいかに自分事とするか」という授業者の工夫が、単元を貫く問いに表れている。協議では、各時間の問いを高知県とのつながりが見えやすいものにする事で、より自分事として捉えられるよう、改善策が提案された。また、講話では、「自分事」として捉えさせるには、「公民として」考えることができるように指導することが重要、という助言があった。授業者・参加者からは、問いを考えていくうえで非常に参考になったという反応が多くあり、授業者・参加者が問いについて高い課題意識や関心を持っていることがうかがえる講座であった。